

平成27年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する本市の考え方について

テーマ①:「防災環境都市」づくり

No.	ご意見・ご提案	本市の考え方
1	地震や水害などのタイプによって、避難対象エリアなど、必要となる情報が異なることから、正確で詳細な情報をどのように発信していくのかが大きな課題だ。	本市では、事前の計画や基準に基づき、緊急速報メール、テレビやラジオ、ホームページやツイッター、広報車による巡回など複数の手段により避難情報等を発信しております。今後も、迅速かつ分かりやすく伝わりやすい情報発信に努めてまいります。
2	防災に関する行政の取り組みや「自立」に対する意識について、市民アンケートなどを通じて知ることが、防災人・防災組織づくりには重要。	市民の皆様の防災意識や防災行政に関する評価・要望などを把握するため、これまで定期的にアンケート調査を実施しております。今後もアンケート調査により市民の皆様の意識等の把握に努め、本市の防災施策に反映していきたいと考えております。  (参考)最新の市民意識アンケート調査結果(平成26年12月) <a href="http://www.city.sendai.jp/kurashi/bosai/keikaku/0059.html">http://www.city.sendai.jp/kurashi/bosai/keikaku/0059.html</a>
3	東日本大震災のような大災害でも、時間の経過とともに人の意識は風化してしまうことから、映像や震災遺構を残すことで、次の世代に伝えるべき。	地下鉄東西線荒井駅内に設置した「せんだい3.11メモリアル交流館」における展示や活動、震災遺構として保存が決定している荒浜小学校などを活用しながら、震災の記憶と経験を将来の世代へと伝承する取り組みを着実に進めてまいります。
4	有事の際に動ける人材を確保するために、地域に住んでいる元医者など、専門的知識を持っている人を予め把握し、コーディネートしていくことが今後必要になってくるのではないか。	地域における自主防災活動の強化に向けた人材の確保について、今後とも地域防災リーダーや町内会に対する人材発掘の働きかけを図ってまいります。
5	取り組みについて計画がないと思われる。対応・取組にスピードを加えてほしい。具体的にいつまでに何を決定し行動するのか。	平成28年3月に策定予定の、平成28年度から平成30年度までの3年間の計画期間とする新実施計画において、重点的に取り組む事業ごとに年次計画と評価指標を設定することとしております。実際の事業の遂行にあたっては、これまで以上のスピード感をもって進めてまいります。

テーマ②: 防災集団移転跡地の利活用

No.	ご意見・ご提案	本市の考え方
1	海沿いの地理や地域の特色を生かして、ビーチスポーツの大会開催を行ってみてはどうか。	地域特性を踏まえた土地利用が必要と考えており、海を利用したご提案のスポーツイベントの開催等も、今後検討していきたいと考えております。
2	緑を増やすための植樹や、パークゴルフ場の整備、津波への不安を軽減するため丘を整備し、いざというときの避難場所にしてはどうか。	現在、跡地に隣接した海岸公園再整備事業の一部(荒浜地区北側)では、パークゴルフ場の整備、避難の丘の整備を行っております。また、今後の土地利用の状況に応じて、別途避難施設の検討を行う予定です。
3	市民、企業、国、県、市とそれぞれ考えていることがあると思うので、そのアイデアを持ち寄り、情報を共有し、それぞれが協力して成し遂げていくことが望ましい。	今後、様々な立場の方々からのご意見やアイデアを頂き、また、必要な情報を共有しながら検討していく必要があると考えております。
4	今回の話し合いのようなことを一度だけにしないで何回か行えばもっと具体的な意見も出てくるのではないか。	今回だけでなく、様々な方々と共に考えて行くことができる場を構築し、幅広い意見等を頂きながら検討する必要があると考えております。

テーマ③: 世界につながる交流都市づくり

No.	ご意見・ご提案	本市の考え方
1	行政が発信する観光地と市民が発信する観光地にはズレがある。仙台の魅力はそこにあり、外国人観光客もそれを求めているのではないか。	近年、個人観光客の増加傾向に伴い、従来の一般的な観光地の情報にとどまらず、仙台に住む地元の人が好むスポットの情報等、外国人観光客が求める観光情報ニーズが多様化しており、引き続き外国人観光客のニーズにあわせた効果的なPR方法を検討してまいります。
2	海の幸をもっとアピールしたり、外国の学生向けに食事つきの寮を作ったり、市民が外国の文化を知っておくのはどうか。	豊かな漁場である三陸沖や全国的にも水揚量が多い港を擁する仙台・宮城にとって、海の幸は重要な観光資源の一つであることから、本市では今までもこれらをPRしてきておりますが、今後とも継続的かつ効果的なPRに努めます。また、本市では多文化共生社会の構築を進めていますが、この取り組みはまち全体のおもてなし力の向上にもつながるものであり、引き続き取り組みを進めてまいります。
3	自分の特技や魅力を見つめ直し、「人材バンク」として登録することで、ボランティアに興味がある市民の受け皿を作ってはどうか。	市民一人ひとりが能力や経験を活かして外国人観光客をおもてなしすることは、まち全体のおもてなし力の向上にとって重要であり、本市ではコンベンション参加者に語学を活かしたおもてなしをしてもらう市民ボランティア制度を運用していますが、こうした仕組みの充実を検討してまいります。
4	言葉が分からないからといって逃げるのではなく、フレンドリーに受け入れることが大事。片言でもいいから何とか伝えようという気持ちを、市民全員が持つことが大事。	市民レベルにおけるおもてなしの雰囲気醸成は、まち全体への印象の形成に大きな影響を与えるものであり、本市では市民を対象としたおもてなし力向上セミナーを開催していますが、まち全体のおもてなし力の向上に役立つ取り組みを引き続き検討してまいります。
5	外国人観光客や仙台に引っ越してきた人の意見を分析するとよいのでは。	外国人観光客の生の意見や、外部から見た仙台・東北の良さを分析することは、仙台観光の強み・弱みを把握する上で大変重要であり、本市では外国人観光客や外国人モニター調査を行っていますが、こうした意見を施策に反映するよう取り組んでまいります。
6	外国人に向けた情報発信に市民一人ひとりが参加しやすい環境づくりが必要だと思います。	情報発信の担い手は多ければ多いほど良く、かつ個人観光客の増加に伴って市民目線による観光情報のPRの重要性も高まっていることから、本市では外国人留学生の目線で観光情報を発信する取り組みを行っていますが、引き続き様々な媒体を活用した情報発信を検討してまいります。
7	三陸国定公園(震災被害地を含め)松島(牡蠣の食事や、ハゼ等の釣り等)、蔵王(山形含めスキー等)の海山の移動時間の短縮が必要。もちろん温泉も。空港、フェリー、駅からの案内、バス、タクシー、レンタカー等交通手段の簡素化が望まれる。インフラの整備がぜひ必要。	海山間の移動を含め、現地交通手段の充実は本市のみならず東北全体にとっての課題であり、外国人観光客がストレスなく移動しやすい環境づくりに引き続き取り組んでまいります。

テーマ④:「子育て応援社会」の実現

No.	ご意見・ご提案	本市の考え方
1	待機児童の問題もあるので、廃校になった小学校や幼稚園を保育園にリフォームできないか。	建物の設備的な違いがありますので、小学校等の校舎をそのまま利用することは難しい面がありますが、小学校等跡地の活用については検討してまいりたいと考えております。
2	子育てに対する理解を深めるため、啓発活動が必要。公共交通機関、特にバスに乗るには有機が必要。ポスターなどを制作し、駅やバス停、企業などに貼ってもらい、子育てをしている人に対する協力を呼びかけてはどうか。	子育て中の方に対する理解を深められるような啓発活動につきましては、今後の検討課題とさせていただきます。
3	子ども一人あたりにかかる養育費はおよそ1,000万円。経済的な負担は大きく、その支援策として、例えば敬老乗車証の子育て版のようなものがあればよい。	敬老乗車証のような乗車券につきましては、本市の財政状況も含めて検討する必要がありますので実現は難しい可能性がございますが、今後の検討課題とさせていただきます。
4	遊具が撤去されている公園が多く、なかなか公園で遊べない。遊具の設置については町内会とも話し合う必要があるため、地域の方々が集まるサロンやお茶会があるとよい。	公園の遊具については毎年安全点検を実施し、破損した遊具について修繕または撤去しております。遊具を新設・再設置する場合には、各区役所公園課より、町内会や公園愛護協会の皆様からご意見を伺いながら行っているところです。町内会の皆様から遊具に対するご希望等がございましたら、お近くの区役所公園課までご相談ください。
5	子育てする親のメンタル面のフォローが少ない。気軽に相談できるカウンセラーや施設の情報を、母子手帳交付時、母親教室や健診の際にチラシやポスターで周知してほしい。	本市では、予約制で児童精神科医や心理士へ相談ができる子どものこころの相談室を各区家庭健康課で実施しております。今後も継続して事業を実施するとともに、利用可能な方々への周知に努めてまいります。
6	家のローンなど、家庭の状況はそれぞれ異なるため、単純に収入によって保育料が決まるのはどうか。	保育料の決定に用いる市町村民税額の算定は、子ども・子育て支援法及び関連する国の通知に基づいて行う必要がありますが、それによると、扶養控除等の人的控除は反映されますが、住宅ローン控除や寄付金控除などの税額控除については調整控除以外反映しないこととされております。 ※内閣府が公開している自治体向けFAQに「税額控除（調整控除を除く）は、人的控除と異なり所得能力を直接反映するものではないことを踏まえ、利用者負担額の算定上反映させないこととします。」と記載されています。
7	オムツ用にごみ袋を配布されるが、量が足りない。特大サイズだと重くて持てなくなるので、小さい袋の数を増やしてほしい。	減免用家庭ごみ指定袋は、ごみ処理手数料の有料化に伴い、負担軽減を図るためにご利用される方々の使用状況を考慮して導入したものです。今後も利便性を十分に踏まえ適切に支援してまいります。
8	待機児童が多い。申し込みをしても面接に受からないと保育所に入れない。病児保育施設が少なすぎる。	近年の待機児童の多さにつきましては本市としても認識しており、待機児童解消に向けて保育施設を整備するなどの対策を講じているところでございます。また、保育所の入所につきましては、利用調整会議において優先順位に応じた入所調整をさせていただいており、面接の結果だけで入所の可否を決定することはありません。なお、平成28年度から、若林区において病後児保育施設を開設予定となっております。今後も引き続き環境整備に努めてまいります。
9	年度末に幼稚園や保育園に通っているお子さんの親御さんに市政の対策に対するアンケートをとってみて、うまくいっているか調べてみる。	市政に対するご意見やご要望につきましては、「市民の声」等で随時受け付けております。現在のところ、対象者を限定したアンケートを実施する予定はございませんので、市政に対するご意見やご要望がございましたら直接お寄せくださいますようお願いいたします。

テーマ⑤: 高齢者が社会の担い手として活躍する新しい仕組みづくり

No.	ご意見・ご提案	本市の考え方
1	「仕事をしたいが仕事がない」という高齢者の就労希望を叶えるため、まず「高齢者は働けない」という風潮を打破する必要がある。	高齢化の進展に伴い、高齢者が地域で支えられるだけでなく、社会活動への参加や就労など支える側の担い手としての役割は今後ますます重要となることから、様々な機会を捉え、高齢者の社会の担い手としての役割について、周知啓発してまいります。
2	高齢者の働き口は職種が限定され、男は警備、女は清掃というイメージが強いので、高齢者が働きやすい仕事や得意なことを活かせる仕事を増やしてほしい。	高齢者の就労に関しては、ハローワークやシルバー人材センターなどが就業支援を行っており、引き続き関係機関と連携し、高齢者の雇用の確保に努めてまいります。
3	高齢者だけではなく、大学生のボランティア活動を必須にするなど、世代を越えた関係づくりが必要だ。	高齢化の進展に伴い、地域における支え合い体制づくりが求められておりますことから、世代間交流などの事業をはじめ、若い世代に対する啓発を進めてまいります。
4	どのように社会に貢献したらいいのか情報がない。	社会貢献のための活動を支援するため、ボランティアセンターや市民活動サポートセンターなど関係機関と連携し情報提供を進めてまいります。
5	高齢者が社会貢献に参加したくなるように、身体的負担の少ない傾聴ボランティアの紹介や、ボランティアに対する対価の支払い、社会貢献した高齢者に対して市から感謝状を贈るなどしてはどうか。	ボランティア活動については、活動を希望される方に対してボランティアセンターなどを紹介しているほか、ボランティア活動立ち上げ費用の助成などを行っているところであり、今後とも社会参加の取り組みを支援してまいります。

テーマ⑥:文化・芸術によるまちづくり

No.	ご意見・ご提案	本市の考え方
1	文化・芸術を仙台人の生活につなげていくことを前提に、文化の新しい魅力を発見し、体験を通してより身近なものに感じてもらうことが必要ではないか。	地下鉄駅なかコンサートの開催や市民の身近な場所にアーティストが出向く訪問型文化事業などをはじめ、引き続き、市民の皆様が生活の中で文化芸術を体験できる取り組みを進めてまいります。
2	無関心な人を含め、様々な人に興味を持ってもらえるようなクリエイティブな情報発信の仕方を考える必要がある。	より多くの市民の方々に様々な文化事業を知っていただけるよう、新しい視点や手法を取り入れながら、情報発信の手法を工夫してまいります。
3	文化施設をもっと開放し、参加・体験型のシステムを作ってみてはどうか。	各文化施設において、より多くの市民の皆様にご利用いただけるような取り組みを進めていくとともに、参加・体験型のもを取り入れるなど、事業内容についても工夫してまいります。
4	スケートリンクを作って総合芸術として世界に仙台をアピールしてはどうか。	スケートリンクの整備にあたっては、スポーツ振興の観点なども含め、様々な視点から検討してまいります。
5	2,000人級のオペラホールの設置が必要ではないか。	現在、楽都仙台の魅力を高める中核施設として、また、震災復興のメモリアル拠点としての音楽ホールの整備について調査を実施しているところであり、その中で検討してまいります。
6	外国の文化を伝える施設があってもいい。逆に仙台の伝統を、外国人の目線や評価を取り入れてリ・デザインしてみてもどうか。	本市では、国外姉妹都市を提携している都市との交流や仙台国際音楽コンクールの開催などを通じて、文化面での交流を推進していますが、引き続き、海外の文化を伝える取り組みを進めていくほか、本市の文化を外国人の視点でリデザインする取り組みなども検討してまいります。
7	仙台の伝統工芸品を外に発信していけるようなシステムづくりの例として、仙台市による「独自文化に対する認定プロジェクト」の中で新しい工芸品を含めて認定し、発信してはどうか。	制作状況の動画やデザインの要素を取り入れたウェブサイトによる伝統工芸のプロモーションなどを実施していますが、引き続き、より効果的な情報発信の方法を検討してまいります。
8	市民が体験できるようなイベントが少ない。もしくは告知力が足りない。	地下鉄駅なかコンサートの開催や市民の身近な場所にアーティストが出向く訪問型文化事業など、引き続き、市民の皆様が生活の中で文化芸術を体験できる取り組みを進めていくとともに、その情報発信についても工夫してまいります。
9	行政観点で自画自賛している感がある。現実はその効果が浸透していない。広報PRの仕方に問題があるかも。楽しいドラマチックな催し案内がTV等マスコミ対策を活用されると良いのでは。	幅広い年代の多くの方々に関心を持っていただけるよう、広報の手法について工夫してまいります。
10	情報の整理と興味を気づきをもってもらうことが大切かと思われる。魅力ある気軽に参加、のぞくことのできるコミュニケーションのとれるイベントが必要。	市民の身近な場所にアーティストが出向く訪問型文化事業などをはじめ、より多くの方々が文化を身近に感じ、気軽に参加していただけるような取り組みを引き続き推進してまいります。
11	若年層(小学生くらい)の参加の壁があると思った。子供が参加しやすいように、学校で知らせを配るなどする。	多くの子どもたちに参加してもらえるよう、引き続き広報PRの仕方を工夫してまいります。

テーマ⑦: 駅X駅→東西線開業による新たなつながり創出

No.	ご意見・ご提案	本市の考え方
1	駅自体が楽しく便利なものとして、また地域を愛し、楽しく生活できる場所であってほしい。駅内外の飲食店を充実させたり、特産物を生かしたイベントを行ったりしてはどうか。	東西線の開業までには、東西線沿線の店舗による物産展など様々なイベントを行なってきました。これからも関係部署や沿線の団体等と連携しながら、駅の魅力向上に資する取り組みを進めてまいります。
2	環状型バス路線の検討など、駅周辺の交通整備が必要。	東西線開業に合わせて、沿線バス路線を東西線の各駅に結節させる路線再編をし、駅周辺の交通整備を実施しております。今後も利用状況を注視しながら、経路や便数を検討してまいります。
3	東部地区の利用者促進のため、東部地区への観光施設(七夕センターなど)の設置、卸町の10-BOXの活用、農地が広がる東部地区ならではの「食」のイベントは行えないか。	東西線沿線には様々な資源があり、今後も沿線地域の開発が期待される場所ですが、それら資源を活かした賑わいづくりを通して、東西線の利用促進を図っていきたく考えています。
4	駅の中にカフェ、スーパー、保育園が入っていると便利。	東西線の駅では、国際センター駅2階において不定期でカフェを営業しているほか、荒井駅には認可保育所が開所する予定です。これからも、駅の利便性向上のため、関係部局にて検討してまいります。
5	「自分たちの駅」という意識が芽生えるように、地域の町内会との連携を取るとよい。	東西線のいくつかの駅周辺では、町内会や事業者の方を中心としたまちづくり組織が設立されており、これまで駅周辺施設のデザインや地域特性を活かしたまちづくりについてなど様々な検討が行われてきました。今後も市民の皆様が親しまれる地下鉄となるよう、地域の皆様と連携を図りながらまちづくりに取り組んでまいります。
6	地下鉄ができることでバス路線が再編されるが、不便になる人が出ないことが大切。	バス事業は、運行に要する経費を運賃で賄う独立採算を基本としており、決まった経路や時間を運行し、1便ごとに多くの方にご利用いただくことで低廉な運賃でご利用いただける交通機関です。そのためお応えすることができない要望もございますので、ご了承ください。
7	市民にアンケートや街頭調査、県・市・東西線HPに希望シートページを開設してはどうか。	現在、仙台市交通局のホームページでは、市民からの交通局へのご意見やご質問をいただくページを設けております。より幅広い市民からのご意見をいただくことについては、ご提案を踏まえつつ検討してまいりたいと思っております。

テーマ⑧: 仙台に住もう！仙台で働こう！仙台への新しい人の流れづくり

No.	ご意見・ご提案	本市の考え方
1	市外に就職する学生たちを引き止めるために、企業と学生のマッチングを図り、仙台で働くという仕組みづくりを行っていく必要があるのではないかな。	仙台で働くことの意義や魅力を発信し、定着を高めるための各種取り組みを実施してまいります。また、新規学卒者向け合同企業面接会等を引き続き国や県等関係機関と連携して開催してまいります。
2	若者と企業のネットワークの場を作るといった取り組みを積極的に行い、誰でも働ける「やさしいまち仙台」をアピールしていくことが求められるのではないかな。	関係機関と連携しながら若年求職者に対し、キャリアコンサルティングやインターンシップ等を実施し、また、首都圏等の大学・ハローワーク等と情報を共有しながら、地元中小企業の魅力を積極的に発信し、UIターン就職も支援してまいります。
3	転勤族に対して「仙台だったら行ってもいいな、行ってみたいな」と思わせ、仙台へ呼び込んで定着を図ることが重要。	住みよい都市としての内容を充実させる取り組みとともに仙台の都市イメージを広く伝えることができるような広報上の工夫を、関係機関と連携して進めてまいりたいと考えております。
4	問題が山積みのようなのだが、浅く広く取り組むより一つ一つ着実に進めていく事が大事。一点集中で特化した取り組みをしてみたらよいのでは。	限られた資源の中で有効な施策を展開するため、本市の強み、弱みを把握した上で、選択と集中の発想の下、より効果的な事業を検討してまいります。
5	中学、高校で、社会や仕事についてのキャリア教育を行うことで、自分の進路や将来をイメージしてもらうのはどうか。	児童生徒が自ら学ぶ意欲をもち、人や社会との関わりを大切にしながら、将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育むため、小学・中学・高校と発達段階に即して、仙台版キャリア教育「自分づくり教育」を推進しているところです。
6	公共料金の引き下げを検討してはどうか。	水道光熱費をはじめとする各種の公共料金は、一義的には、それぞれの事業を営む事業主体の経営状況、経営方針の下、各事業を規制する法体系の枠組みの中で決定されるものと考えており、これらの枠組みを超え、市の施策として公共料金の引き下げを一律に行うことは、その公正な仕組みづくり、財源の捻出方法など、課題が多いものと認識しております。